

「…どうにか」

「どうか…男子と普通に
おしゃべりできるようになりたいです。」

ぱんぱん

チャリン





「すぐに、Hな妄想する癖をやめたい…です。」

「この人に…犯されたらどんな感じだろうとか…勝手に想像するのは…やめたいです。」

ペコッ

「神様、この頭まっピンクの性格を直したいのです…。」

「どうか、お願いします。」

「この間だって…。」

キョ



男子A

「芹澤さん、よかったら今度、勉強教えてよ。」

「え、べ、勉強？」

男子A

「うん。芹澤さん意外と頭いいでしょ？」

「俺、最近数学ついていけなくてさー。コツとか知らない？」

ドッキ

ガッ

ガッ

ガッ



(え、え、勉強って、教えるとなったらどちらかのお家に行くわけよね？
そ、そしたら…)

(Hな展開になるに決まっているじゃない…♡)

(私、まだ処女だし、Hなこと教えられないし、こ、コツなんて知らないし…)

どきどき♡

ハッ

ハッ

「え、えと、私、そっち系のほうの勉強はあまり…得意じゃなくて…」

男子A

「そっち系のほう？」



「え！ちがつ！…くて、え、えと…」

「ごめんなさいー!!!」

ガッガッ

ドキッ

バッ

ガッ

ガッ



「…帰ろ。」

ゴッ
ゴッ

「あーあ。普通に恋愛したいなあ。」

「そしたら、あんなことや、こんなことも…♡」

「って、さっきHな妄想する癖を直したいって
お願いしたばかりなのに！
私のバカバカ！」



——神社の帰り道

(どうやったら、男子と普通にしゃべれるだろう…)

(せめて、日常会話ができるくらいにならないと、
困るよね。)



「あ、あれ？」
「ハハハハハハ。」

「ま、迷っちゃったかな…
来た道をまっすぐ帰ってたはずなのに…」

「どうしよう…」

チン
チン

ク
ク



「あ、川の音…」

「よかった。川を降れば多分町に戻れるわ。」

「川の音は、ぐっぐっちね。」



「……」

ホッ



「……」

「お、おしっこしたくなっちゃった…」

(川の音を聞いてるせいかな…)

「だ、誰もいないよね。」

(どうして、我慢できさるうかない…)

もじ

もじ

ポッポ



「なんだか、バチが当たりそうだけど、お漏らしするよりかはマシ…」

(…変な看板があった気がするけど、まさかね。)

蛸妖怪注意

どき

どき

ガバッ

ググッ

ニ





くしゃわ〜の

「ユホ」ホ...



びしょ

びしょ

びしょ

びしょ

「ふー。なんだか悪いことしちゃった気分。」

(あそこは、川の水でゆすいでしまお。)

(ティッシュは、カバンに入ってるはず。)

が、が、が、
が、が、が、

が、が、が、
が、が、が、

フィル...

フィル...

ポ、ポ、

ポ、ポ、



「え…？」





「!?!」

「な、なに?!」

(なに、このぬるぬるした生き物?!)

「んっ!動けない...!」

「!?!」

ガッ
ギョッ
ブル...

ブル...

ブル...

ブル...





「んむっー!」

「だ、だがっ…!」

「ひょっと、はなひつよー!」

「ひやめて…!…くださら…!」

いほっ

ちゅっ

又キヤッ…

又ル..

キヤッ!

かきゅ!



「ぶはっ」

(あ、体が痺れて…身動きが…)

「あ、熱い…。」

「ひやめっ…、私のパンツ、返してっ…。」

「あ、そこ、触らないで…!」



ヌッ...

きゅっ

んっ...

んっ...

ヌッ...

おっ...

「駄目…！まだ拭いてないから、
き、汚いし…」

「ほう、そこばかり、グリグリしないでえ…」

「ダメ、出ちゃう…！」



ヌル…

フム…♡

フム…

ホム…

フム…





「……!!」

びびび

びびび

びびび
びびび

びびび……♡

びびび

びびびびびび
びびびびびび
♡♡



「うっ、うっ」

「うっ、うっ、うっ、さっきおしっこしたばっかりなのに…!」

「駄目、ノイッたばかりで、敏感に…
入って来ないで…」

ハッ、ハッ、ハッ

ハッ、ハッ、ハッ

グッ、グッ

ヒッ、ヒッ、ヒッ

グッ、グッ

グッ、グッ

グッ、グッ

グッ、グッ

グッ、グッ…

「ああ…」

「は、恥ずかしいよ…おっぱい、弄らないでえ…」

(…さっきから、私の敏感なところばかり、的確に、)

(だめ、気持ちよくなっちゃう…)

「同時に弄らないでえ…♡♡♡」



アッ♡

アッ♡

グキョ♡

アッ♡

グキョ♡

アッ♡

アッ…

「あっ、はあ…！」

(声、我慢できない。)

『だめ、ダメエ、すぐいつちゃううう』

『いぐ、いぐぐぐっイグー♡』



ぐわ..♡

ぐわ..♡

ちゅ..♡

ぐわ..♡

ぐわ..♡

ぐわ..♡

又ル..



【=♡=】

びしょ

びしょびしょ

びしょびしょ

(でも、この生物、意外に優しい、のかな。
て、丁寧に扱ってくれる気がして、
悪い気は、しない、かな…)

「んん…！」

「また、きちやう…♡」

「イク…おもひっきり、イかせて…♡」

「そのとき」

フー

742♡

742♡

70
ジ

7:20

742♡

742♡

7il..

7il..





「イツクウラー~~~~♡」

触手
「ピギヤアアアア!!」

「シヤン・シヤン・シヤンデリア!!」

Q

↓

ア

ア

ア

ア

ア

ア

触手生物は突如現れた
謎の少女の聖なる力で
散り散りバラバラになっていく。



「大丈夫!？」

「この辺りは危ないから近づいちゃ駄目。」

キッ

「…あ、ありがとうございます、助けてくれて…」

「……」

(いいところだったの…)

トク

トク…♡



「あの触手、人間の体液が大好物なの。」

「Hな気分になっちゃったと思うけど、
惑わされては駄目。
そうやって人間を襲うのだから」

「…そ、そうだったの。」

「……」

いじ…

(確かに、あれ以上犯されてたら、
どうなっていたか
分からない…)



「落ち着いた？帰ってしっかり休んでね。」

「まだ、あの触手の体液が残ってるからお風呂にもちゃんと入るのよ。」

「わ、わかったわ。」

「あ、あなたは？」

(私より幼らなのよ、さっしからいんよ。)



「私は通りすがりの巫女!」
「すぐ近くの神社で巫女をしてるわ。」

「川の見回りに来たら、
あなたが襲われてて、助けたってわけ。」

「そ、そうだったのね…
ありがとう。」

(…もう少し遅く助けに来ても良かったのに…)



「どういたしまして！」
「まあ、もうすぐ暗くなるし
急いで帰るのよ。」

「あの道をまっすぐ降れば町に戻れるわ。」

「うん。」

フクッ

謎のピンク髪少女
「気をつけて、まっすぐ帰るのよ。」



「……」

(まだあそこが疼いて……)



フ
ー
♡

キ
ン
♡

じ
ん
♡

♡

じ
ん
♡

「…持って帰ってきちゃった…」

「すごい生命力…、全然生きてるのね君。」

触手

「ピギィィ。」

(何してんだろ、私。)

ドキッ♡

ドキッ♡



又ル..

又ル..

「きゃ...」

「ふふ、欲しがりさんなんだから、
慌てないで...いいよ♡」

「ふふ、可愛さ...♡」

(私がこの子の面倒見てあげないと、ね♡)



♡♡♡

♡♡♡

♡♡♡

♡

♡♡♡

♡♡...

♡♡♡

♡♡♡

「ひゃ…」

「パンツの中、入ってきちゃって…」

「また、頭、ふわふわしてきちゃった…」

「んむっ…んくっ…」



んくっ♡

んくっ♡

んくっ♡

んくっ♡

んくっ♡
んくっ♡

んくっ♡

んくっ♡

「ううっ♡」

(私のあそこ、優しく…弄られてる…)

「駄目、気持ち良すぎて、すぐ…」
「んん、あっ♡」



「あう…」

「ほ、ほんとに上手ね。君…」

「ん、私の体液で、大きくなっての？」

(成長してるんだ、私の体液で…だったら…)

「もっと、来ていいよ…♡」



フ〜♡

フ〜♡

は〜♡

ヒクッ♡

ヌッ♡

ヒクッ♡

ム

ビクッ♡

ビクッ♡

オクッ♡

オクッ♡

ム

「あ…」

「おっぱいも、同時に触って…♡」

(乳首も、クリも、弱いところ全部…
徹底的にいじってくる…♡)

「あうっ！…そこ…♡」

「あうっ！…♡」

「ドキロ」

「ん」

「カリッ」

「カリッ」

「ガッ
ガッ
ガッ
♡」

「420」

「420」

「420」

「420」

「んっ…」



「私の、愛液と、君のぬるぬる、
合わさって、どんどん感じちゃう♡」

(同時に攻められて、また…
頭、真っ白にっ…♡)

「ああ、来ちゃう♡また…♡」

「さっ、さっ、さっ、さっ、さっ♡♡」

お
つ
ぬ

フ
ー
っ

イ
グ
っ

フ
ッ

フ
ッ

フ
ッ

ビ
ッ

ビ
ッ

ビ
ッ

ジ
ッ
ッ
ッ

ジ
ッ
ッ



「はぁー、はぁー…」

(もう、だめ、気持ちよくなることしか、考えられない…♡)

「もっと、ちょうらら…♡」

はー♡♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

ぽ♡

びゅ♡

ぽ♡

ぽ♡



「ふふ…立派なもの、持ってるのね♡」

「そんなもの、入るのかなあ…」

ドキッ♡

は♡

触手
「ピギイ…」

「いいよ、来て♡」
「めっちゃめっちゃに♡して♡」

は♡

ドキッ♡

ヌルッ♡

ホッ♡

ヌルッ♡

は♡



「んん♡」

「すっぽり、入っちゃった…♡」

「大、丈夫、だから…
もっと、ぐちよぐちよしてえ♡♡」

「んん、あっあっ♡」

じゅわん♡

ぐち♡

びゅん♡

んん♡

ぐち♡

ぐち♡

ぽろ♡



「♡♡♡♡」

「いびつ、腰、勝手に…
動いひゃう…♡♡♡♡」

ぞく♡

「駄目、頭、チカチカして、
止められない…♡♡♡♡」

はあ♡

は♡

はま♡

ちんちん♡

へ♡

ごぼ♡

う

ごぼ♡

へ♡

うい♡

うい♡



「はあ、はあー♡♡」

はあ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

「この子、気持ちいい♡
とろろぱっかり…」

「んく♡」

（ああ、この子と、キス…
ディープなキス♡♡）

「んむっ♡んむっ♡」



びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

びゅ♡

んく



「~~~~~♡♡」いっ♡

げっ♡

おっ♡

びっ♡

びっ♡

ん

おっ♡

ん♡

ん♡
ホ♡
ホ♡
ホ♡

びっ♡
びっ♡
びっ♡

「んんっー、くうー」

（だめ、どうしようもなく感じちゃってる…♡）

（私はこの子に合わせて、腰を振るだけ…）

（なんだかこの子に操られてみたいで…♡♡）

たー



へっ♡

へっ♡

グッ♡

う

かっ♡

キッ♡

へっ♡

ホッ♡

ホッ♡

はっ♡

ゾッ



カバ

カバ

カバ

カバ

カバ

カバ

カバ

カバ

「はあー、あっー♡」

「あっ」

触手

「ピギャ…?」

「だ…だめ…まだ、抜かないで♡」

もう、少し、だけ

このままで…♡」

「も、もう少しだけでいいから…」



「んんっ!んあ♡♡」

「ひゃっ♡ひゃう♡」

「あっ♡あっ♡」

「また出ちゃう…♡」

「んぎ♡んっ♡」

「ま、また、♡♡」

「お股、壊れひゃう♡♡♡♡」

ん



——あの出来事から
私は男子と普通にしゃべれる
ようになった。



男子A
「芹澤さん、最近なんか大人っぽくなったよね。」

「あらほんと？」
「老けたって意味じゃないよね？笑」

男子A
「違ってたなんていうか…」
「色っぽくなったっていう感じ？」

キーン
クーン
カーン
クーン
ザン

ザン
クーン
ザン



「えへへ、嬉しい。」

「彼が出来たからかな♡」

男子A

「えええ！、芹澤さん彼氏いるのー！？」

「がーん…」

肩を落とし帰る男子A
「とほほ…」

がーん

ザッ
ザッ
ザッ

ザッ
ザッ
ザッ



「……ふっふっめんね」

「うん。帰ったら彼が待ってるから……♡」

ブルッ
ブルッ

ブルッ
ブルッ



「これからよろしくね…」

「私の触手君♡」



芹澤聖良story

ーおわり



「もう悪さしちゃダメよ！」

「いくら山の守り神だからって
限度があるんだから！」

ガニ

ガニ

バン

ヌル

ヌル



「あんたの自浄作用かなんかで川が綺麗になるから生かしてあげてるけど。」

ググ

ググ

「それがなかったら、とっくに処分してるんだからね。」

「わかってる？」

ガニ

ガニ

ヌル

ヌル



「…ちよつと、元氣ないの？」

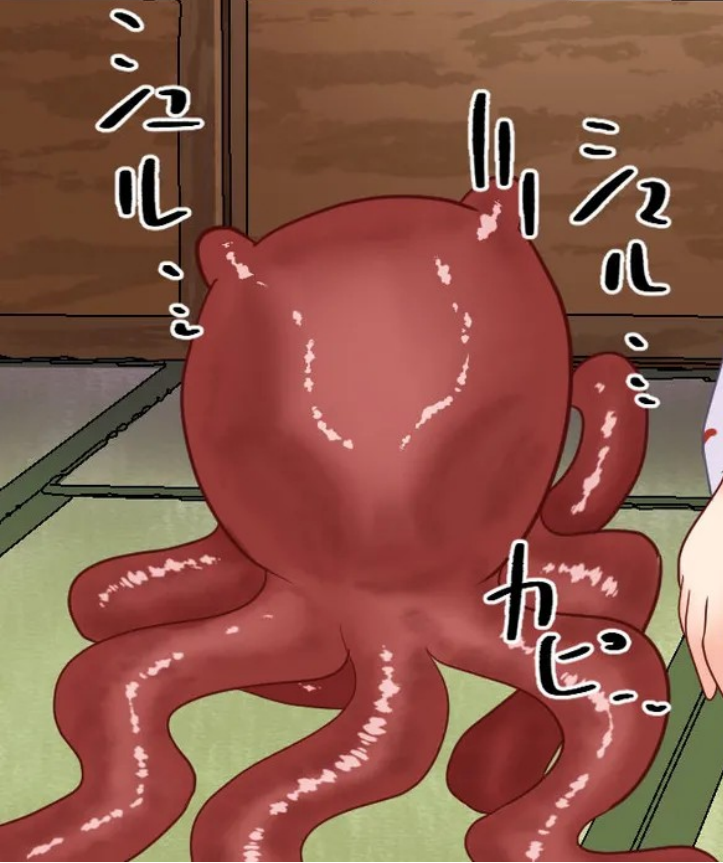
触手

「ピギィ……」

「仕方ないわね…」

「…どうせなら私の胸を大きくするの手伝ってよ。」

(胸を揉まれたら大きくなるって聞いたことがあるし…)
少しだけなら…)



「んん…」

「私の胸が大きくなって、
あんたも元気になる。」

「いい考えでしょ。」

（死なせるわけにはいかないし…
仕方ないわよね）

「そう、んん、上手だよ…」

ぬぎ♡

ぬお♡

フル♡

ぎゅ♡

フル♡

か♡

ば…♡





「んんっ…」

「ちよっと、乳首はをめて…
胸を揉んで欲しいのよ…」

「んんっ…」

「んんっ…ちよっと感じちやう…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「んんっ…」

「あむっ！」
「に、にが…」

(…この子、人間の体液が好物だもんね…
このくらいなら、が、我慢しなちや。)

「あ、しまった、変な気分だ…♡」
「はあっ、やめて…乳首はっひやり…」

げっ♡
げっ♡

♡ぽ♡

しっ♡

たっ♡
たっ♡

♡っ♡
♡っ♡

♡

♡

♡





「んむっ、んあ♡」

「ひくびっ、カリカリしないで…」

(やばっ、「このまま続けられたら…」)

「あっ♡あっ♡」

「ひゃっ、ああ♡」

あ、あ、あ

じ、じ、じ

ち、ち、ち

お、お、お

わ、わ、わ



「はあー、はあー」

「お、お漏らししちゃった…」

はあ

ブル

フ

はあ

ヒク

ヒク

ホタ

ホタ

「はっ」

「ちょっとー！らじまのなつおがっごめものー！
離れてー！」

はっ

グ
ク

「もう元気になったでしょ！」

ガ
ガ

しゅ...

り...♡



「…あれだけ揉まれたし、少しは効果あるでしょうね。乳首はっかりだったけど…」

「もし、ちゃんと効果があったら…また揉ませてあげてもいいわ。」

「だから、それまでは大人しくしておいてよ。」



グ4

グ4

か

バツ

ツル

ツルロ

ツル
バツ
イロ

ツル
ツル

ホタツ

~~~~~あくる日の学校  
~~~~~授業中にて



(…はあ、やっぱり迷信だったかな。)
(胸揉まれたら、大きくなるって…)

(…せめてもう少しだけグラマラスな
体型になりたいなあ。)



「っ!」

「この感触っ、まさか…」

(制服の中で…胸揉まれちゃってる…)

びゅん…

もずいっ

!?

びゅん

(うそ、学校までついてきちゃったの!?)

もずい



「だ、だめ、今は授業中よ…」

(神楽鈴、神社に置いてきちゃったし…)

「声、我慢しなちゃ…」

はーっ♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

びゅん♡

わん♡

わん♡

ふる♡

「…っ、…っ♡」
(ま、また乳首ばっかり…)



男子B
「東條さん、大丈夫？」

「…うん大丈夫、ぶ
なんでも、ないから…」

(やば、声、漏れてた?)

ドキッ♡

男子B
「ほんと? 顔赤いよ。」

「…ほんとに、平気…
しゃっくりが、止まらないっ
だけ、だから」

「…ひっく」

ク、ク、ク

ヒッ♡

キュッ♡

フッ♡

ん、ん、ん

ん、ん、ん



男子B
「なんだ、しゃっくりか」

(なんとかか…誤魔化せた…?
けどこのまま、続けられたら…)

ドキッ♡

ヒッ♡

フッ♡

キュッ♡

アッ♡

フッ♡

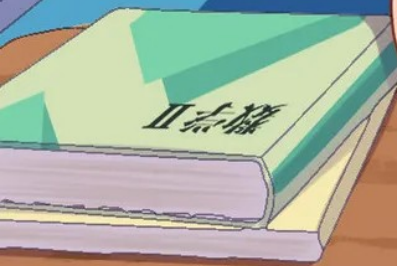
「…ん♡」

「…ひっ♡」

(だ、だめ…ちっさよりの…
激しくなってる…)

ん♡

ん♡





「んっん♡」

(やば、パンツ、濡れてきちゃった...)

「ひっく...」

んっ

ドキッ♡

んっ

ゾッ♡

ゾッ♡

(うっうっ...イっく...)

(もう、我慢、出来ない...)

(イっく...イっく...イっく...♡)

イッくッ!

んっ♡
んっ♡
んっ♡

グッ♡
グッ♡

ギッ♡
おっ♡

んっ♡

んっ♡

んっ♡



(チャイム音)
キーンコーンカーンコーン

「はっ!!」

「ト、トイレ!!!」

ピクッ♡

トキッ♡

か♡
か♡

ダッ
ダッ
ダッ

II 志願



Handwritten notes on a piece of paper pinned to the chalkboard.

Handwritten notes on a piece of paper pinned to the chalkboard.

三太郎

ヒョ
ア?
♡

ホ
ア?
♡

ヒョ
ア?
♡

「……トイレにて
個室に入り、鍵をかけた途端……」



「はあ、はあ…」

「…イ、イっちゃった…
ごんなどい…」

「あ、あんた…
帰ったら、覚えておきなさいよ…」

キーン

キーン

ビーン

ニルル

ビーン

はー

はー

はー

はー

はー





「!?」

「あ、そこ、だめ…」

「…っ、離しなさいよ…」

「ははは」

「フリ」

「ガハハ」

「びび」

「!?」

「んあ」

「びび」

「ドキ」

「びび」

「待って…同時に弄らないで…」

「んっ、んあ」



「だめっ、だめだめっ！」

「い、今、敏感だから…
くりくりしないでえ…」

「あっ、んっ♡」

「すぐ、イっちやう…♡」

「ひくっ、イクイクっ♡」

♡♡♡

ちゅ♡

くり♡

ちゅ♡

ビクッ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

イクッ♡

イクッ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡

ちゅ♡



「んあ♡、はあっ♡」

「こんなところで…中に…」

クッ
ポッ

「…だめ、入って来ないでえ…」

「んくうっ!?」

「あっ、かはっ…」

グッ
グッ

ビクッ

ビクッ

クッ

クッ

クッ

クッ

クッ
クッ
クッ

クッ

クッ
クッ

クッ

クッ





「はあ...はあ...♡」

「あ...」

(...ちよつとだけ...)

「...」

「...」

ホタ...

ホタ...

カ...

カ...

あ...

「...♡」

ト...

カ...

カ...

カ...

「……帰り道にて

「重さ……」



「すっかり大人しくなっちゃって…」

「ま、まあ心なしか
胸も大きくなった気がするし
感謝してるわ。」

「けど、もう元気になったでしょ。」

ザッ

ザッ



(ちよつとだけ寂しいけど…)

『そろそろ、元いた場所に
戻りなさい…』

「おやっ？」

ザッ

ザッ

!!

ガッ





「…あたた」

「…何よ…まだ足りなかったの？」

触手

「ぴぎゅ…」

「ぴぎゅ」

「ぴぎゅ」

「……」

「しよ、しよがないわね…」

「ふしゅ」

「きゅん」

「きゅん」

「きゅん」



「最後まで…付き合っただけあげるわ…」

「元はと言えば、私があんたをこんなのに
しちゃったわけだし…」

（あ、私、もう濡れてきちゃってる…
ちよっと触られただけで…
期待…してたんだ…）



びしょ

びしょ

トキ

ニル...

ししょ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

ちゅ

びしょ



「はあっ♡、ああっ♡」

「だ、だめ…これ好き♡」

(クリも乳首もカリカリされて…)

「同時に攻められるの…好き♡」

「っく♡、イクう♡」

イクッ!

ジグロ

ギグロ

キグロ

ズグロ

フグロ

クグロ

イクッ!

ジグロ

♡♡

「じ、じらしなないで…」

「きて…はやくっ♡」

「その、大きな触手ちゃんぽ…
くだ、さい…
準備…出来てるから♡」

は…♡

どきっ♡

トキ♡

っ♡

くはっ♡

ズっ♡

ヒッ♡

グッ♡

ヒッ♡

グッ♡

グッ♡



「んんあ♡♡」

「は、入っちゃった…♡」

「あ…お尻の穴…だめ。
そ…そこは違うわよ…」

「んっくっ♡」

「そこは汚いから、ひやめて…」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」



「んおっ♡♡」

(入っちゃった…私のお尻の穴に…)

「ほんとに…器用ね…あんた♡」

「はんっ♡、やばっ♡、ああっ♡」

(お尻も…こんなに…感じてっ♡♡)

ゾクッ♡

ゾクッ♡

はまっ♡

フッ♡

くっ♡
くっ♡

ふっ♡

ふっ♡

ふっ♡

フッ♡

ふっ♡





「んっ♡、もっとお♡♡」

「もっとめちやくちやに、してえ♡」

「乳首も…クリも…お尻も…な、中も…
気持ちいいの…ちようらい♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」

「んっ♡」





「あっ♡、大きいの、きちゃう♡」

「だめっ、もう、我慢出来ない…♡」

「また、出ちゃう♡」

「んおっ♡」

イクイクイクイっちゃうっ♡♡♡

んおっ♡

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ

びしょ

びしょ

びしょ

イクッ!

イクッ!

ぐわっ

ぐわっ

ぐわっ





「…ちよつと、調子に乗りすぎたかしら…」

触手

「ピギ…」

「あ…バイバイ。元気だね。」

「トキョロ」

「フー」

「トキョロ」

「フー」

「ガハハ」

「フル…フル…」

「フル…」



「……」

「胸…少し大きくなってる…」

「一応効果…あったみたいね。」

……♡

♡

た
い
び
♡

い
び
♡

「また来るわ♡」

「あんたは私が管理しなきゃ…ね♡」



東條朋子story

——おわり